

【運営方針③】研修カリキュラムの充実

【評価基準】 A:大きく上回る B:上回る C:概ね達成 D:やや下回る E:下回る

【基本方向】新規就農から農業経営者の育成まで発達段階に応じたカリキュラムの強化					
評価項目	評価目標	具体的方策	取組状況	評価	次年度に向けた改善策
1 農業理解の促進から新規就農者の定着まで幅広いニーズに対応した研修の実施	(1) 定員充足率 :80%	① 経営の発達段階に応じた研修の実施【継続】 新規就農を志す者を対象に、就農（林業含む）に必要な実践的な栽培技術と知識を習得する研修を実施する。また、農林業体験からスマート農業等新技術の展示や経営管理能力の向上を目的とする研修まで、就農の動機付け段階から経営発達段階までのそれぞれのニーズに対応した各種研修を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規就農希望者を対象として、優れた農業経営者による講義や試験研究機関での実習と当校での講義等を組み合わせた1年間の長期研修「新規就農支援研修」を、受講者24名、他研修機関聴講生22名で実施した。新型コロナウイルス感染防止対策のため、日程の変更やリモート研修に取組むなどその都度対応をしながら実施した。</li> <li>就農希望の他産業従事者を対象として、稲作・野菜・果樹の3コースで専門知識を学ぶ「働きながら学ぶ農業入門講座」を実施した。コロナ禍の影響のため計画した日時・回数の変更等余儀なくされたが、稲作コースは川西町と鶴岡市の2か所で受講者各13名・9名で各4回と5回実施、果樹コースは天童市を主会場に受講生36名、6回実施し、野菜コースは鶴岡市において受講生10名で6回実施した。</li> <li>スマート農業等新技術の展示は、農林大の授業を公開講座として実施する予定であったが、コロナ禍のため、研修生のみ案内し、8名の参加となった。</li> </ul> <p>* 定員充足率は、「新規就農支援研修」が92%、「働きながら学ぶ農業入門講座」が61%となり、平均77%であったことから、「C」評価とする。</p>	(1) 研修定員充足率 ……C(77%) ・新規就農支援研修 :92% ・働きながら学ぶ農業入門講座:61%	<ul style="list-style-type: none"> <li>「新規就農支援研修」受講生全員が就農予定であることから、就農定着に向けて、円滑な農業開始が図られるよう関係機関・団体と連携して支援する。また、受講生は親元就農や継承就農ばかりでなく、新たに事業開始を目指して自ら経営部門を立ち上げて就農する事例が多くなったことから、農業技術関連の講義のほか、収益性の試算方法や資金繰り対応など財務会計のカリキュラムを充実する。さらに、定員充足率が低い状況が続いており、本校独自の募集PRだけでは定員確保が困難なことから、本校での研修実施から終了後の受け皿支援対応まで、市町村・JA等との連携支援体制づくりを強化する。</li> <li>「働きながら学ぶ農業入門講座」の稲作コース、野菜コースの会場を変更して受講者確保を図ったが、予想に反して受講者が少なかったため、コース毎の会場を再検討して、より多くの受講者確保を図る。</li> </ul>
2 農業者の経営力向上、新分野の事業展開を支援する研修の実施	(1) 定員充足率 :80% (2) 各塾の修了率 :90%	① 企業の経営体の育成支援【継続】 本県農業を牽引する優れた経営感覚を備えたスーパートップランナー（生産力の高い企業的な農業経営を展開する経営体）の育成を目指し、規模拡大や新たな事業展開までの高度な経営学を学ぶ「やまがた農業経営塾」を実施する。  ② 女性農業者の育成支援【継続】 若い女性農業者が、新たな事業展開等に意欲的に取組み、自らの経営部門を持って活躍できるよう、実践的な販売力や経営力の習得を支援する「アグリウーマン塾」を実施する。  ③ 6次産業化や新分野導入等への支援【継続】 乳製品加工施設を活用しながら、乳製品の加工・販売を目指す農業者等を対象に、チーズの基礎的知識と製造技術までを学ぶ「乳製品加工研修」を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>スーパートップランナーの育成を目的とする「やまがた農業経営実践塾」については、事業計画策定手法、先進事例調査による経営理念の理解、商談会への出展を通じての販売実践力の体得など全10回の研修(受講生14名)を計画した。コロナ禍の影響により一部実施できない研修もあったが、リモート研修を活用しほぼ計画に沿った研修を実施した。また、専門家による事業計画へのコンサルティングを行い、経営発展のための事業計画策定を支援した。</li> <li>「アグリウーマン塾」については、女性の感性を活かしたビジネスプランの策定を目指し、課題の棚卸法や解決に向けた対応法、ビジネスモデルの組立等を実践的に学ぶ全5回による講義、演習を計画し実施した。リモートによる研修も織り交ぜながら、受講者15名中12名が受講を修了した。</li> <li>これまでの修了生を対象に、研修修了後のフォローアップ研修会を県内3ブロックで開催し、事業実施の進捗状況や実行しての課題への対応策などきめ細かな助言・指導を実施した。</li> <li>チーズの製造加工を目指す酪農家等を対象として、チーズ製造の基礎知識や製造実践技術などを学ぶ農業ビジネス支援研修「チーズ加工研修」を計画したが、コロナ禍で実施しなかった。</li> <li>コロナ禍のため、チーズの製造販売を目指す者に対する乳製品加工施設の一般開放を実施しなかった。</li> </ul> <p>* 定員充足率は、「やまがた農業経営実践塾」が140%、「アグリウーマン塾」が70%となり、平均105%と目標の80%を上回ったことから、「B」評価とする。修了率は、「やまがた農業経営実践塾」が100%、「アグリウーマン塾」が80%となり、平均90%と目標の90%を達成したことから、「C」評価とする。</p>	(1) 定員充足率 ……B ・やまがた農業経営実践塾:140% ・アグリウーマン塾:70% ・農業ビジネス支援研修:－(中止のため)  (2) 修了率 ……C ・やまがた農業経営実践塾:100% ・アグリウーマン塾:80% ・農業ビジネス支援研修:－(中止のため)	<ul style="list-style-type: none"> <li>講座カリキュラムについて、次年度、より高度な農業経営の展開に欠かせないスマート農林業に関する最新の取組み状況等を盛り込み、内容の充実を図る。</li> <li>受講者の中には、家庭の事情により一部欠席や受講辞退がみられた。修了率向上を図るため、欠席した場合でも課題解決や計画づくりが進められるよう、農業技術普及課等ときめ細かに支援する体制を強化する。</li> <li>新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、チーズ加工の基礎知識から製造までを学ぶ研修の充実を図り、乳製品の製造・販売を事業化する人材の育成を支援する。</li> </ul>

自己評価	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>経営の発達段階に応じた研修は、就農希望者の就農背景や能力に応じてきめ細かにを行い、参加者の農林業に対する理解・知識などを高めることができた。特に、「新規就農支援研修」については、就農定着するまでモチベーションの維持・向上を図りながら、意欲ある農業者として育成支援することが重要であることから、関係機関・団体と連携し、目指す農業経営の実現に向けた指導・支援を行っていく。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、研修生相互の交流を十分実施できず、研修生の仲間づくりを十分支援できなかった。</li> <li>農業者の経営力向上・新分野事業展開を支援する研修については、「現場で使えること」、「学んだことが活用できること」を想定し、研修生が演習・実習を通じて具体的な手法を体感し、実践的な技術力や経営力を体得できるよう心掛けて研修を進めたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、グループ討論等効果の上がる手法については、十分にできなかった。</li> <li>すべての研修においてコロナ禍の中でも、どうすれば研修を継続し研修生に学びの場を提供できるかを考え、臨機応変に対応した。研修生からは、「理解度が深まった。参加して良かった。」「現場で活用したい。」との声が寄せられており、好評であった。今後も、受講者の要望等を把握し、研修カリキュラムのブラッシュアップを図っていきたい。</li> </ul>	C

学校関係者評価(意見・要望等)→現在の取組状況・次年度の改善策	学校関係者評価(意見)	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭菜園コースがあったら、定年後の楽しみで始める人も多いと思うので、平日でも開催できるのではないかと。また、有機栽培や学生が先生になるなどの工夫があると良いと思う。→ 来年度も、一般の方を対象に年間4回(5月中旬、6月中旬、7月中旬、9月中旬)、平日に「園芸教室」を開催します。毎年参加されている方もいることから、内容については参加者の要望を聴取しながら、検討していきたい。学生の参加については、学生自身が教えることは難しいことから、担当職員のサポートとして参加させたい。</li> <li>女性農業者の研修への参加が、家事などの理由で欠席になりがちなことに対しては、リモート講習会の実施や映像による受講などが効果的かと思えます。→ 家事などで多忙な女性の受講者が参加しやすいよう、リモート開催なども実施していきます。</li> <li>ドライフルーツ、ドライベジタブル加工研修が、より多くのニーズがありそうな気がします。→ 研修内容については、研修参加者の意見を聴取しながら、検討していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「働きながら学ぶ農業入門講座」の研修をニーズのありそうなところで実施するという新たな試みは大変重要なことだと感じていました。結果として充足率が低くても、新たなチャレンジをしていくことが大事だと思います。</li> <li>社会人になってからは、農業について学べる場がとて少ないので、研修の場として残していただきたい。</li> </ul>	C